



# Community Roads

港北ニュータウン コミュニティ道路の計画



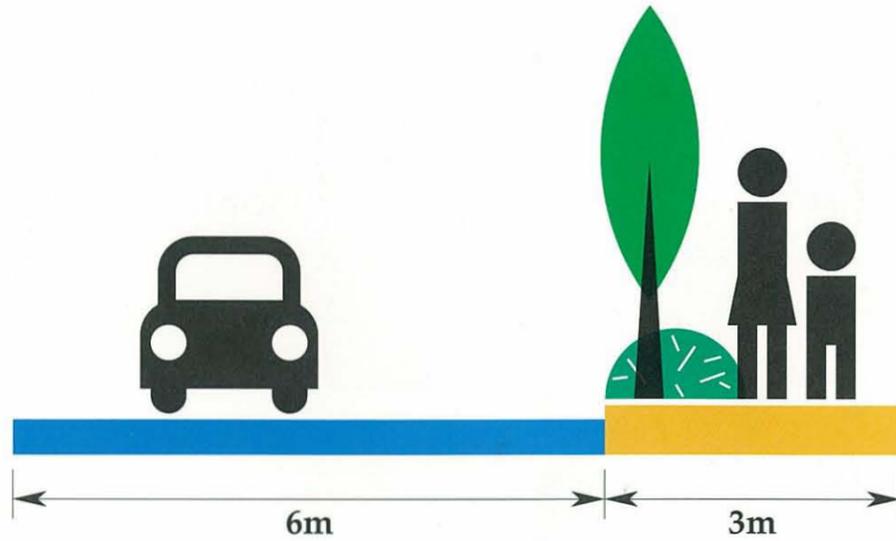
住宅・都市整備公団  
港北開発局

●  
225 横浜市緑区荏田北1丁目5番地5号

電話045-943-7325

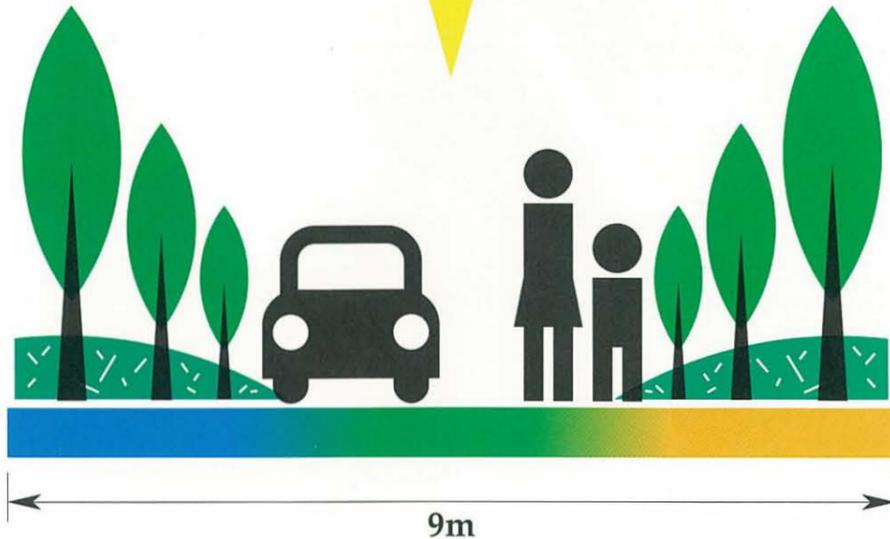
April 1991

制作  
[株] RIVアソシエーツ  
Bolt & Nuts Studio  
©1991



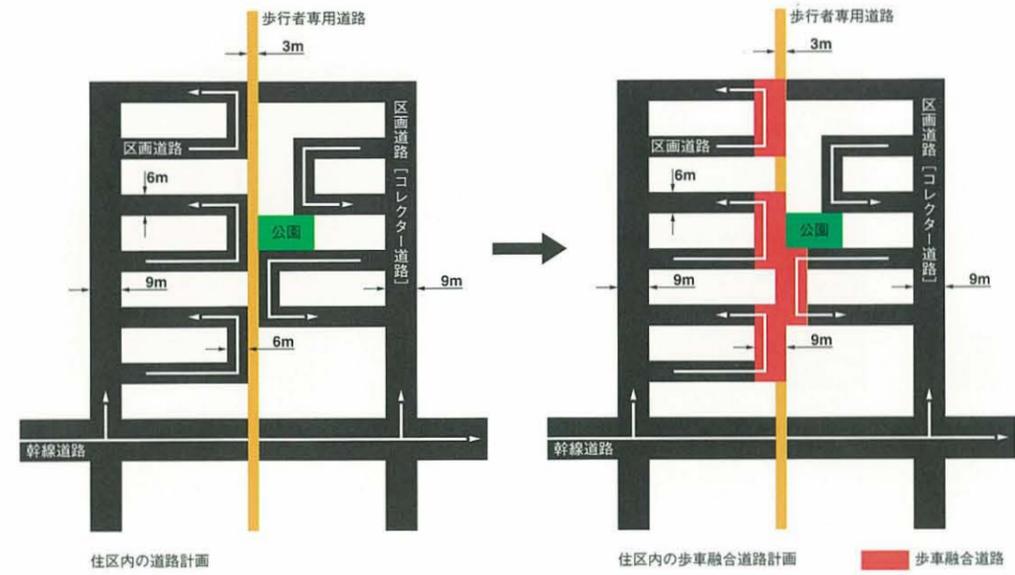
## 歩行者専用道路を発展させた新しい歩車融合道路、 港北ニュータウンのコミュニティ道路。

港北ニュータウンの道路計画は、その目的や性格、幅員によって、幹線道路、区画道路、歩行者専用道路の3段階に区分され、安全で快適なみち空間が形成されています。特に歩行者専用道路はすみずみまでネットワークが張り巡らされ、交通の歩車分離化が図られています。この歩行者専用道路システムをより充実、発展させた新しい試みが、港北ニュータウンのコミュニティ道路（歩車融合道路）です。コミュニティ道路は独立住宅地区の歩行者専用道路とそれに平行する区画道路とを一体化することにより、歩行者のゆとり空間の確保や、住民のコミュニティ意識の向上を図ることを意図したものです。また、ニュータウンの基本方針のひとつである“緑豊かなまちづくり”を緑道景域から外れた独立住宅地で実現させるコミュニティ道路は、公園などと共に“住区内の緑化空間の核”としての機能はじめ、さまざまな役割が期待されています。



コミュニティ道路の特徴

●  
コミュニティ道路の計画は、歩行者専用道路と区画道路を融合させることによって、住区の環境を向上させることができる。例えば3mの歩行者専用道路では1列の植栽しかできないが、6mの車道を融合した9mの幅員をもつコミュニティ道路では緑豊かな植栽が可能となる。また広幅員化に伴い、人々の休息・語らいの場が緑の中で確保できるなど、まさに住区のコミュニティの場を提供することができる。



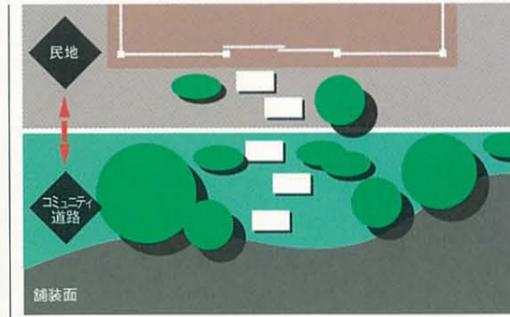
コミュニティ道路計画

●  
港北ニュータウンの道路計画は、ニュータウンと周辺を結ぶ幹線道路、地区内のサービスを目的とした区画道路（9m幅員のコレクター道路と6m幅員の道路）、そして歩行者専用道路（センター地区や学校、公園を結ぶ12~9m幅員道路と、住区内をきめ細かく結ぶ6~3m幅員道路）によって構成されている。独立住宅地のブロック内では、幅員3m（一部4.5m）の歩行者専用道路がU字型の区画道路（幅員6m）の先端部を束ねる形で配置されているが、この区画道路の先端部の車の量はきわめて少なく、ゴミ収集車あるいは、各戸への荷物配送車等に比較的限定される。一方、歩行者専用道路の3m（一部4.5m）という幅員は歩行者の快適性を十分に確保するほどの余裕をもっていない。そこでこの限られた車のみ進入する区画道路先端部と、これに平行する歩行者専用道路を一体化、共存させることによって、実質的により豊かな空間の確保を意図した歩行者優先の歩車融合道路がコミュニティ道路である。



歩行者専用道路 コミュニティ道路 近隣センター

●  
港北ニュータウンでは、歩行者専用道路のネットワークがすみずみまで張り巡らされている。コミュニティ道路は、この歩行者専用道路と連係することにより、より充実、発展させた歩行者空間を提供することを意図したものである。このような計画のもと、独立住宅地のブロック内で、区画道路と歩行者専用道路が街区の短辺方向に2街区以上連続平行し接する道路を対象として、第一地区12ルート・第二地区24ルートの、計36ルート総延長約4.9kmのコミュニティ道路が計画され、整備が進められている。



沿道宅地・住民との関係

●  
コミュニティ道路の空間は、ショッピングモールの華やかなものではなく、生活に密着した“庭の道路空間”である。これは、コミュニティ道路が宅地と接する部分に植栽地をとりながら、将来、玄関の設置が予想される周辺に低木や草花を配し、玄関のアプローチにふさわしい植栽計画が図られているからである。また、このようにしてつくられる空間は、周辺住民の共有空間として意識され、清掃・低木や草花の手入れ植付け等住民の積極的な参加により、より豊かな歩行空間として形成されることとなる。





線に囲まれた空間が  
安らぎのある住宅景観を生み出している。



公共スペースに住民が植えたショウブ。  
民地の緑と一体化して緑量が確保されている。



周囲の車止めや樹木によって車からの安全が  
確保された語らいの場 休憩スペース。



休憩スペースの対話型ベンチ。周辺住民に  
コミュニケーションの場を提供している。

**休憩部の考え方**

立ち話、休憩、子供の遊びなど、周辺住民のソフトな屋外空間活動を受け入れる“コミュニティ形成”を図る場である。

- 車止め、シンボルツリー、ベンチ機能を持つシンボリストリートファニチャーなどを設置し、各コミュニティ道路の個性化を図る。
- 歩道用舗装材は車道用と変える。



住民参加で植えられた花々。人々に愛され  
より快適な空間となるコミュニティ道路。



裏玄関がコミュニティ道路に設置された例。  
アプローチのための平板が敷かれている。



緑豊かで安全なコミュニティ道路は、  
住民の散策の路としても親しまれている。



デザイン化された舗装パターンも  
道路景観に変化を与えている。



**交差部の考え方**

歩行者に対しては、安全性と自由な動線を確認し、ドライバーに対しては、コミュニティ道路であることを認識させ減速効果を図る場所である。

- 交差点中央にアイストップとして常緑高木を配し、ドライバーに認識させる。
- 車止め及び縁石により車両をスムーズに誘導する。
- 歩道用舗装材は車道用と変える。
- 歩道に車止めを設置し開口を設け、歩行者に対して安全で自由な動線を確認する。

**9.0 m道路入口部の考え方**

コミュニティ道路入口部は、一般の区画道路と異なることをドライバーに認識させ減速効果を図る場所である。

- 舗装材を小舗石舗装やインターロッキング舗装に変える。
- 歩行者の安全と、ドライバーに認識させるために車止めを設置する。
- 減速効果を図るために植栽帯を確保し、車道部の幅員を狭める。



小舗石舗装によるイメージハンプ。白と黒の対比がコミュニティ道路を意識させる。

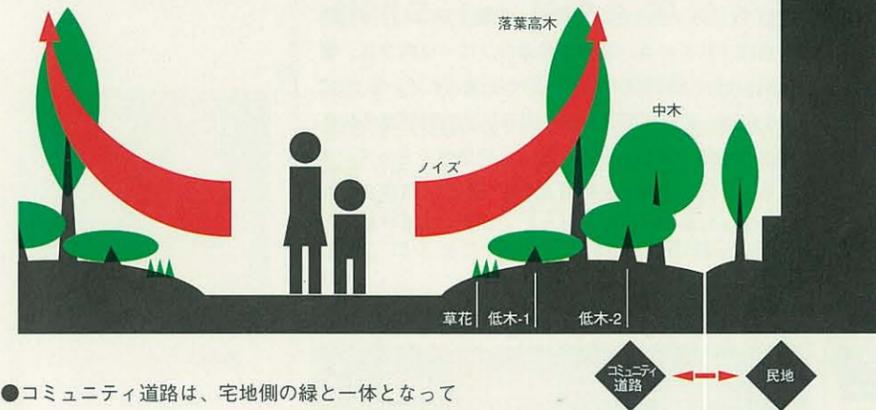


民地の緑と公共の緑がコミュニティ道路の開放的で明るい空間を彩っている。



四季折々の花々が道路景観に美しい変化を与えている。

**やすらぎの空間を演出するコミュニティ道路**



- コミュニティ道路は、宅地側の緑と一体となって緑豊かなやすらぎの“みち空間”を演出する。
- 植栽計画は、落葉高木、中木、低木、草花など、多様な樹種でバランスよく構成し、四季折々の季節変化を演出する。
- コミュニティ道路沿いの植栽は、宅地間または宅地とコミュニティ道路間のノイズを吸収する機能を持つ。



交差点に置かれたパイプベンチ。機能とデザインに配慮した様々な試みの一つ。



交差点に置かれた植樹は散策時の一休みや語らいのベンチとしても機能している。



歩行者専用道路とネットワークされたコミュニティ道路は楽しい通学路でもある。



通過交通が排除され、コミュニティ道路は子どもの遊び空間としても機能している。



舗装材の変化、曲線的なデザイン、花木の緑によって和らかな道路空間が生まれた。

独立住宅地内に豊かなみどり空間と住民の安らぎ、ふれあいの場を生み出すコミュニティ道路は、第一地区12ルート、第二地区24ルート、総延長 4.9kmにわたり計画・整備が進められている。



**コミュニティ道路 路線別一覧表**

第一地区		
路線番号	延長 [m]	幅員 [m]
2-1	215	9
4-1	83	9
4-2	146	9
6-1	84	9
7-1	99	9
7-2	204	9
7-3	123	9
9-1	159	9
10-1	202	9
11-1	138	9~15
12-1	88	9
12-2	157	9~12

第一地区 計 1,698

第二地区		
路線番号	延長 [m]	幅員 [m]
1-1	140	9~13
1-2	132	9
2-1	97	9
4-1	119	9
7-1	110	9~10
10-1	174	9
10-2	193	9
10-3	158	9~15
11-1	110	9
11-2	86	9
13-1	146	9
13-2	183	9
13-3	99	9
14-1	91	9
14-2	148	9
15-1	145	9
15-2	100	9
15-3	172	9
16-1	72	10.5
17-1	143	9
18-1	108	9
18-2	139	9~15
19-1	224	9~15
19-2	137	9

第二地区 計 3,226

総合計 4,924



# Green Matrix & Community Roads

港北ニュータウンのグリーンマトリックスシステムとコミュニティ道路

